

かけがえのない命を 守りましょう

犬は、不調を言葉で訴えることができません。犬の健康は飼い主の世話や対応次第。日頃のヘルスチェックで病気を早期発見できれば、愛犬の負担は軽くなり、さらには飼い主の経済的な負担も抑えられます。

ヘルスチェックのポイント

今日の元気、食欲、排泄、毛づや、歩き方や座り方はどうですか。むやみに水を欲しがったり、涙、鼻水は出ていませんか。よだれが多い、セキやくしゃみをするといった変化はありますか。

ブラッシングや耳そうじ、歯みがき、爪切りなどを通して飼い主と愛犬の信頼関係を深めると同時に、全身の皮膚の様子やしこり、口や耳のおいなどをチェックしましょう。

また、予防できる病気で愛犬を失うことがないように、定期的に健康診断を受けたり、予防接種をさせることも、飼い主の愛情です。



「健一さん(60代)、美恵子さん(50代)のご夫婦は、子犬を飼い始めたとき、健一さんが病気で倒れ入院してしまいました。看護をするために、美恵子さんはやむなく子犬を毎日ケージに入れて病院へ。健一さんはやがて元気を取り戻して退院しましたが、幼い時にひとりぼっちで「社会化」を学ぶことができなかった子犬は、健一さんや美恵子さんを咬むようになってしまったのです。

困り果てたふたりは、動物看護師に相談。アドバイスを受け辛抱強く犬と向かい合いましたが、なかなか咬み癖は直りません。そんな時、心の支えになったのは、散歩で出かける公園で知り合った犬の飼い主仲間たちでした。「彼らがいなかったら、飼育をあきらめていたかもしれません。今はこのこもずいぶん穏やかになって、甘えるので可愛くて」と微笑む美恵子さんです。

悩むこともあるけれど…健一さん、美恵子さんの場合

